



# 士別翔雲高校だより

学校通信 第181号 令和8年 3月25日(水) 発行 校訓「一步前へ」

## 令和7年度を振り返って ～全国へ、そして世界へ羽ばたく生徒たち～

校長 佐藤 敬二

日ごとに春の気配が感じられる季節となりました。保護者の皆様、そして地域の皆様には、日頃から本校の教育活動に多大なるご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

令和7年度も間もなく幕を閉じようとしています。今年度を振り返りますと、本校の生徒たちが国内の舞台のみならず、世界を視野に果敢に挑戦し、目覚ましい成果を上げた、正に「飛躍の一年」となりました。

### ○ 躍動する生徒たち～全国の舞台で轟かせた「翔雲」の名～

今年度、部活動や文化活動において本校の歴史に新たな1ページが刻まれました。

- ・**全国制覇と最優秀賞の快挙**：ウエイトリフティング部がインターハイ学校対抗戦で悲願の全国初制覇を成し遂げ、日本一の栄冠に輝きました。また、国際局は英語スピーチコンテストで全国最優秀賞および文部科学大臣賞を受賞、新聞局も全国高等学校総合文化祭に参加し優良賞を受賞するなど、文武両道でトップレベルの実力を示しました。
- ・**地域を沸かせた活躍**：野球部のセンバツ「21世紀枠」候補校選出は、学校のみならず地域全体に大きな勇気と活気を与えてくれました。さらに、トランポリン、クロスカントリースキーにおいても全国大会出場を果たし、多方面で生徒の才能が開花しました。

### ○ 世界へ羽ばたく～国際感覚を磨く挑戦～

今年度は「グローバルな学び」においても特筆すべき進展がありました。

- ・**海外への短期留学**：士別市の姉妹都市であるオーストラリア・ゴールバーンマルワリー市へ7名の生徒が短期留学したほか、「トビタテ！留学JAPAN」の選考を突破しフィリピンへ渡った生徒、「北海道・ニュージーランド高校生留学促進事業」によりニュージーランドへの短期留学に挑戦した生徒など、自ら外の世界へ飛び出し、異なる文化の中で自己を磨く逞しい姿が見られました。

### ○ 地域と歩む教育活動～進路実現と探究学習～

こうした華々しい活躍の土台には、日々の地道な学習と地域との連携があります。

- ・**進路目標の実現**：徹底した学習支援により、一人ひとりが高い志を持って進路目標の実現に取り組み、着実な成果を上げています。
- ・**地域連携と探究活動**：総合ビジネス科を中心に、地域の教育力を活用した実践的な学びを展開しました。ボランティア活動や探究学習を通じ、生徒たちは地域の皆様から直接学び、地域に貢献する喜びを肌で感じております。

本校の教育活動は、保護者の皆様の支え、そして地域社会の深い愛情とご理解があって初めて成り立つものです。生徒たちが地域に見守られ、世界や全国へと挑戦できる環境にあることに深く感謝申し上げます。

令和8年度も、士別翔雲高校は「地域に根ざし、世界を視野に入れる」生徒たちの夢を全力で応援してまいります。今後とも変わらぬご厚誼と、温かいご支援をいただきますようお願い申し上げます。

なお、令和7年度卒業生の進路状況（合格・内定状況）につきましては、本校ウェブページ（裏面参照）に掲載しております。

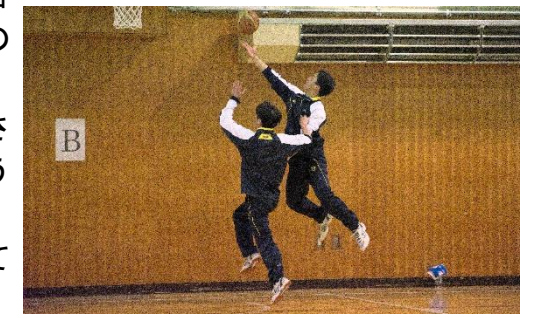
## 結末の輪 ー熱戦が繰り広げられたクラスマッチー

2月6日（金）に実施を予定しておりました合同スキー授業ですが、当日はあいにくの悪天候に見舞われ、今年度は中止することとなりました。しかし、校内には生徒たちの明るい声と熱いエネルギーが響き渡りました。

スキーに代わって行われたのは、クラスマッチに向けた練習です。体育館ではバスケットボールやバレーボールの激しいラリーが繰り広げられ、卓球場からも一球一球に集中する小気味よい音が響くなど、真剣に練習に励んでいました。話し合いを重ね、勝利を目指して団結する姿には、単なる代わりの行事としてではなく、目の前の目標に全力で向き合おうとする強い主体性が感じられました。

迎えたクラスマッチ当日は、練習で培ったチームワークが発揮されました。屋外では雪に足を取られながらも必死にディスクを追う「雪中アルティメット」が展開されました。

種目を問わず、自分の出番ではない時も惜しみない声援を送っていました。



## 親子で対話のきっかけに。弁護士による消費者トラブル講話

2月16日（月）にPTA研修会を実施しました。子どもたちが18歳で成人を迎え、保護者の同意なく自らの意思で契約ができるようになる中、私たち大人にできることは何でしょうか。そんな不安や疑問を解消するため、地域で日々さまざまな法的問題に向き合っておられる 弁護士法人道北法律事務所（旭川弁護士会所属）から笠原裕治弁護士をお迎えし、消費者被害の実態と対策についての講話を行いました。

笠原弁護士からは、若者を狙う巧妙な勧誘の手口や、契約書にサインをする重みについて、具体的なエピソードを交えながらお話いただきました。トラブルは決して遠い世界の出来事ではなく、誰にでも起こりうることだからこそ、日頃から親子で何でも話し合える関係性を築いておくことが何よりの守りになるとアドバイスをいただきました。

この研修会が、各ご家庭で「大人になるとはどういうことか」「困ったときにどう助けを求めらるか」を親子で語り合うきっかけとなることを願っております。



## 合格者速報

先月号で3年生の進路状況をお知らせしましたが、その後、新たに合格した生徒がいますので、その嬉しい報告を今月号でお伝えいたします。努力と成果が実を結んだ姿に、心からの祝福を送ります。

### 祝 合格（2月24日以降）

名寄市立大学	1名	琉球大学	1名
旭川市立大学	1名	神戸市外国語大学	1名
北見工業大学	1名	滋賀県立大学	1名
帯広畜産大学	1名	都留文科大学	1名
釧路公立大学	1名		3月23日（月）現在

# 翼を広げ、それぞれの未来へ — 第19回 卒業証書授与式 —

柔らかな春の光が差し込む3月1日(日)、本校体育館において第19回 卒業証書授与式が厳かに挙行されました。保護者の皆様、ご来賓の方々に見守られ、105名の卒業生が、3年間通い慣れた学び舎を巣立っていきました。

式典では、クラス担任から一人ひとりの名前が読み上げられました。その返事には、高校3年間で培った自信と、新しい世界へ踏み出す決意が込められており、教職員一同、胸が熱くなる思いでした。



卒業生を代表した前生徒会長の3年A組佐々木陽生さんの答辞では、体育祭・学校祭で深まった絆、部活動での葛藤などといった、彼にしか語ることでできない等身大の言葉が紡がれました。「またどこかで会ったとき、友達と呼ばせて下さい」という言葉には、高校生活を共にした仲間たちへの思いが詰まっていました。共に笑い、時には涙した仲間への感謝、そしてこれまで自分たちを支えてくれた家族や地域の方々への謝辞に、会場のあちこちですすり泣く声が漏れていました。

式の締めくくりには、在校生による卒業生を送る合唱が響き渡りました。「あなたへ～旅立ちに送るメッセージ～」のメロディーに乗せて、これまでの思い出と未来への希望を乗せた歌声は、参列した人の心に深く刻まれました。

式を終え、教室で最後のホームルームを過ごした卒業生たちの表情は、どこまでも晴れやかでした。高校生活という多感な時期を共に駆け抜けた仲間は、これから先、どのような道を歩もうとも一生の宝物となるはずです。

## 表彰者一覧

皆勤賞 **岡山綾莉、橋本侑、藤田康育、矢嶋晴、市橋官大、伊藤空龍、和久緩菜**

特別賞 (ウエイトリフティング部の活動で優秀な成績を残したことを賞して)

**中遥陽、石川英虎**

産業教育振興中央会賞

**澤田璃士**

全国商業高等学校長協会賞

**松本小羽**

この通信は阿部新聞店様、道新平中販売所様、道新鈴木販売所様のご厚意により、地域の皆様に無料にて配布させていただいております。

〈発行者〉北海道士別翔雲高等学校 担当：総務部  
 〈電話〉0165-23-2914 〈FAX〉0165-23-2911  
 〈ホームページ〉<http://www.s-shoun.hokkaido-c.ed.jp/>  
 〈E-mail〉s-shoun@hokkaido-c.ed.jp

**上記のホームページ(もしくは右記のQRコード)でカラー版をご覧いただけます。**

その他生徒達の活動は随時学校INSTAGRAMにて更新しておりますので、そちらも是非ご覧下さい。



## 社会で求められる人材とは

名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科 郡司竜平(特別支援教育)氏

「社会で必要とされる人って、どんな人だと思いますか？」

はじめまして。名寄市立大学で特別支援教育を担当しています郡司竜平と申します。私は大学で特別支援教育を専門にし、保育者を目指す学生さんたちと日々向き合っています。まだ大学に来て4年目ですが、その中で強く感じるのは、これからの社会で求められるのは「多様な人と共に生き、共に働く力を持つ人」だということです。私たちが暮らす社会には、さまざまな背景や特性を持つ人がいます。障害のある人、外国にルーツを持つ人、性的マイノリティの人、生きづらさを感じている人も含め、それぞれが違いを持って生きています。特別支援教育は、こうした“違い”に光をあて、一人ひとりが自分らしく生きるための支援を探る学問です。この視点は、教育や福祉の現場だけでなく、企業や地域社会でもますます重要になってきています。今、企業が本当に求めているのは、「誰かの“困りごと”を自分ごととして考え、工夫して一緒に前に進める人材」です。それは単なる“優しさ”ではなく、「多様性を理解し、対話を通して互いが一歩ずつ歩み寄って関係を築き、柔軟に動ける力」なのだと思います。例えば、特別支援学校の現場では、一人ひとりに合った学び方や関わり方を日々工夫しています。その中で大切にしているのは、「相手の立場に立って考える力」と「チームで支える力」です。これらは、特別支援学校だから必要な力ではなく、どのような職場でも必要な力です。職場でのチームワークやお客様とのやりとりなど、どの業界でも活かされる力なのです。

大学では、学生たちがこうした力を身につけられるよう、グループワークや教育、保育実習、ICT機器の活用など、多様な学びを行っています。そして何より大切にしているのが、「まずやってみること」。小さな挑戦の積み重ねが、自信となり、行動力へとつながっていきます。さらに私が伝えたいのは、「失敗を恐れず、学び直す姿勢の大切さ」です。すべての人にとって学びは一度きりではありません。何度でも立ち止まり、見直し、挑戦する力こそが、これからの社会を支える鍵になるのです。

これからますます変化が大きく見通すことが難しい社会において、「何を知っているか」よりも「どう感じ、どう考え、どう動くか」が常に問われます。誰もが違いを持って生きている時代だからこそ、その違いを「豊かさ」として受けとめられる人こそ、未来をつくる主役になるのではないのでしょうか。皆さんの中にも、きっと誰かを支えたり、気づいたりできる力がもう芽生えているはずですよ。どうかそれを大切に、育てていってください。社会は、皆さんのような新しい力を待っています。

### 【4月行事予定】

- 1日(水) 学年始休業(～7日)
- 8日(水) 着任式、始業式、大掃除、入学式、PTA入会式
- 9日(木) 対面式・生徒会オリエンテーション、身分証明書写真撮影、HR役員選出【前期】
- 10日(金) 2年スタディサポート①、進路マップ①、進路希望調査①、1年宿泊研修結団式
- 11日(土) 3年春予備模試①、3年公務員模試①
- 12日(日) 1年宿泊研修①
- 13日(月) 1年宿泊研修②、3年生徒進路説明会、3年生自転車点検
- 14日(火) 1年振替休業日、2年生自転車点検、図書館バス
- 15日(水) 2年生徒・保護者進路説明会、1年生自転車点検
- 16日(木) 交通安全講話
- 17日(金) 尿検査①、内科検診①、リーダー研修会
- 18日(土) 土曜授業、参観日、PTA総会
- 20日(月) 1年スタディサポート①、進路マップ①、進路希望調査①
- 21日(火) メディアリテラシー講話①
- 22日(水) 1年生徒・保護者進路説明会
- 23日(木) 歯科検診、生徒総会議案書審議
- 24日(金) 尿検査②、内科検診②、3年模試前日実施
- 25日(土) 3年全統共通テスト模試①、3年公務員模試②
- 27日(月) 授業料・諸納金口座振替日、内科検診③、公開授業週間(～5/1)
- 28日(火) 1年胸部X線・心電図検査
- 29日(水) 昭和の日
- 30日(木) 3年進路別ガイダンス、3年保護者進路説明会

